

会員事業所景況実態調査令和2年10月～令和2年12月分集計結果
調査依頼数:540 回答数92 回答割合:17%

令和2年度3回目の会員事業所景況実態調査の調査結果について下記のとおり報告いたします。
 調査結果については、今後の要望・提言活動や経営相談に活用してまいります。
 ご回答いただいた事業所の皆様、お忙しいなか、ご協力ありがとうございました。

★DI値とは

各項目について、増加・好転(仕入単価:下落、従業員:不足)と回答した事業所の割合から減少・悪化(仕入単価:上昇、従業員:過剰)と回答した事業所の割合を減じた数値。
 ゼロを基準とし、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

【質問 A】 前年同時期と比較した10月～12月の景況

	項目	増加・好転	不変	減少・悪化	合計	DI値	前回DI値	対比増減
全体	売上	12	25	55	92	▲ 46.7	▲56.4	9.7
	採算	7	35	50	92	▲ 46.7	▲48.9	2.2
	仕入単価	5	59	25	89	▲ 22.5	▲21.7	▲0.8
	従業員	14	61	16	91	▲ 2.2	▲4.3	2.1
	業況	7	28	57	92	▲ 54.3	▲51.1	▲3.2
	資金繰り	4	61	27	92	▲ 25.0	▲18.1	▲6.9
建設・建築業	売上	2	9	8	19	▲ 31.6	▲30.0	▲1.6
	採算	2	8	9	19	▲ 36.8	▲25.0	▲11.8
	仕入単価	0	11	8	19	▲ 42.1	▲15.8	▲26.3
	従業員	6	11	2	19	21.1	15.0	▲6.1
	業況	1	8	10	19	▲ 47.4	▲30.0	▲17.4
	資金繰り	0	14	5	19	▲ 26.3	▲ 26.3	0
製造業	売上	2	4	14	20	▲ 60.0	▲55.6	▲4.4
	採算	2	5	13	20	▲ 55.0	▲55.6	0.6
	仕入単価	0	14	4	18	▲ 22.2	▲22.2	0
	従業員	1	13	6	20	▲ 25.0	▲11.1	▲13.9
	業況	2	3	15	20	▲ 65.0	▲61.1	▲3.9
	資金繰り	0	12	8	20	▲ 40.0	▲33.3	▲6.7
卸・小売業	売上	3	3	12	18	▲ 50.0	▲68.4	18.4
	採算	2	6	10	18	▲ 44.4	▲57.9	13.5
	仕入単価	1	12	5	18	▲ 22.2	▲15.8	▲6.4
	従業員	3	11	4	18	▲ 5.6	▲5.3	▲0.3
	業況	2	5	11	18	▲ 50.0	▲57.9	7.9
	資金繰り	1	13	4	18	▲ 16.7	▲15.8	0.9
飲食・サービス業	売上	2	7	12	21	▲ 47.6	▲65.2	17.6
	採算	1	10	10	21	▲ 42.9	▲56.5	13.6
	仕入単価	3	12	6	21	▲ 14.3	▲30.4	16.1
	従業員	4	14	3	21	4.8	▲4.3	▲9.1
	業況	1	9	11	21	▲ 47.6	▲56.5	8.9
	資金繰り	3	14	4	21	▲ 4.8	▲21.7	16.9
不動産・その他	売上	3	2	9	14	▲ 42.9	▲64.3	21.4
	採算	0	6	8	14	▲ 57.1	▲50.0	▲7.1
	仕入単価	1	10	2	13	▲ 7.7	▲23.1	15.4
	従業員	0	12	1	13	▲ 7.7	▲23.1	15.4
	業況	1	3	10	14	▲ 64.3	▲50.0	▲14.3
	資金繰り	0	8	6	14	▲ 42.9	▲21.4	▲21.5

(全体)

売上、採算は改善しているが、依然としてDI値が▲40ポイント以上と高くなっている。従業員は若干改善したが、依然として過剰となっている。一方、仕入単価、業況、資金繰りは若干ではあるが悪化しており、依然として業況のDI値は▲50ポイント以上と高くなっている。

(建設・建築業)

資金繰り以外で悪化しており、採算、仕入単価、業況のDI値は10ポイント以上悪化している。売上、採算のDI値は▲30ポイント以上、仕入単価業況のDI値は▲40ポイント以上と高くなっている。従業員は人手不足がさらに強くなっている。

(製造業)

採算、仕入単価以外で悪化しており、依然として売上、業況のDI値は▲60ポイント以上と非常に高くなっている。また資金繰りのDI値も▲40ポイント以上と高くなっている。採算は若干改善しているが、DI値は依然として▲50ポイント以上と高くなっている。

(卸・小売業)

仕入単価、従業員以外は改善しているが、依然として売上、業況のDI値は▲50ポイント以上、採算は▲40ポイント以上と高くなっている。一方、仕入単価、従業員のDI値は若干悪化した程度であるが、依然として従業員は過剰が続いている。

(飲食・サービス業)

従業員以外で改善しているが、依然として売上、採算、業況のDI値は▲40ポイント以上まで高くなってきている。従業員は過剰から人手不足に転じている。改善傾向が強いが、これはサービス業であり飲食業に限ると不変や悪化の割合が高くなっている。

(不動産・その他)

売上、仕入単価は改善しているが、依然として売上のDI値は▲40ポイント以上と高くなっている。従業員は10ポイント以上改善しているが、依然として過剰が続いている。一方、採算、業況、資金繰りは悪化しているが、資金繰りは▲20ポイント以上と大きく悪化し、DI値も▲40ポイント以上まで高くなってきている。採算、業況もDI値がそれぞれ▲50ポイント以上、▲60ポイント以上と非常に高くなっている。

【質問 A】 10月と比較した1月～3月の先行き見通しについて

	項目	増加・好転	不変	減少・悪化	合計	DI値	前回DI値	対比増減
全体	売上	7	28	56	91	▲ 53.8	▲52.9	▲0.9
	採算	4	34	53	91	▲ 53.8	▲43.7	▲10.1
	仕入単価	5	61	22	88	▲ 19.3	▲26.7	7.4
	従業員	16	56	19	91	▲ 3.3	0.0	▲3.3
	業況	1	32	59	92	▲ 63.0	▲54.0	▲9.0
	資金繰り	5	55	32	92	▲ 29.3	▲27.6	▲1.7
建設・建築業	売上		5	14	19	▲ 73.7	▲57.1	▲16.6
	採算		6	13	19	▲ 68.4	▲57.1	▲11.3
	仕入単価		12	7	19	▲ 36.8	▲19.0	▲17.8
	従業員	6	9	4	19	10.5	0.0	▲10.5
	業況		5	14	19	▲ 73.7	▲47.6	▲26.1
	資金繰り		12	7	19	▲ 36.8	▲38.1	1.3
製造業	売上	1	5	14	20	▲ 65.0	▲42.9	▲22.1
	採算	1	5	14	20	▲ 65.0	▲38.1	▲26.9
	仕入単価		12	6	18	▲ 33.3	▲33.3	0
	従業員	1	12	7	20	▲ 30.0	▲19.0	▲11.0
	業況		7	13	20	▲ 65.0	▲52.4	▲12.6
	資金繰り		13	7	20	▲ 35.0	▲23.8	▲11.2
卸・小売業	売上	3	6	8	17	▲ 29.4	▲64.3	34.9
	採算	2	7	8	17	▲ 35.3	▲35.7	0.4
	仕入単価	1	12	4	17	▲ 17.6	▲21.4	3.8
	従業員	4	11	3	18	5.6	14.3	8.7
	業況		7	11	18	▲ 61.1	▲71.4	10.3
	資金繰り	2	11	5	18	▲ 16.7	▲28.6	11.9
飲食・サービス業	売上	2	8	11	21	▲ 42.9	▲42.9	0
	採算	1	10	10	21	▲ 42.9	▲28.6	▲14.3
	仕入単価	3	15	3	21	0.0	▲21.4	21.4
	従業員	5	13	3	21	9.5	14.3	4.8
	業況	1	9	11	21	▲ 47.6	▲50.0	2.4
	資金繰り	3	12	6	21	▲ 14.3	▲21.4	7.1
不動産・その他	売上	1	4	9	14	▲ 57.1	▲58.8	1.7
	採算		6	8	14	▲ 57.1	▲52.9	▲4.2
	仕入単価	1	10	2	13	▲ 7.7	▲37.5	29.8
	従業員		11	2	13	▲ 15.4	0.0	▲15.4
	業況		4	10	14	▲ 71.4	▲52.9	▲18.5
	資金繰り		7	7	14	▲ 50.0	▲23.5	▲26.5

(全体)

仕入単価以外は悪化する見通しであり、特に売上、採算のDI値は▲50ポイント以上、業況のDI値は▲60ポイント以上と非常に高くなっている。従業員は適正から過剰になる見通しである。

(建設・建築業)

資金繰り以外は悪化する見通しであり、業況では20ポイント以上、他も10ポイント以上と大きく悪化している。特に売上、採算、業況のDI値は▲70ポイント前後と非常に高くなっており、非常に悪化する見通しを立てている。従業員では適正から人手不足に転じる見通しである。

(製造業)

仕入以外は悪化する見通しであり、売上、採算では20ポイント以上、他も10ポイント以上と大きく悪化している。特に売上、採算、業況のDI値は▲60ポイント以上と非常に高くなっている。従業員のDI値は▲30ポイント以上となりさらに過剰が進む見通しである。

(卸・小売業)

全項目で改善する見通しであり、特に売上は30ポイント以上と大幅に改善する見通しである。売上のDI値も▲30ポイント前後まで改善している。業況は依然としてDI値が▲60ポイント以上と高くなっている。従業員では依然として不足が続く見通しである。

(飲食・サービス業)

売上、採算以外は改善する見通しであり、特に仕入単価のDI値は20ポイント以上改善しDI値も0まで改善する見通しである。業況のDI値は依然として▲40ポイント以上と高くなっている。一方、採算は10ポイント以上悪化する見通しであり、DI値も40ポイント以上と高くなっている。また売上は前回と変わらずDI値は▲40ポイント以上と高くなっている。

(不動産・その他)

売上、仕入単価以外は悪化する見通しであり、特に資金繰りは20ポイント以上、業況も20ポイント近く悪化し、DI値も資金繰りは▲50ポイント以上、業況は70ポイント以上と非常に高くなっている。また、売上、採算もDI値が依然として▲50ポイント以上と非常に高くなっている。従業員では、適正から過剰に転じる見通しである。一方、仕入単価は30ポイント近くと大きく改善する見通しである。

